



賛助会員・機関誌購読者のみなさま、および
「3.11 からの出発」活動基金にご寄付くださったみなさまへ

2014.4.18

「3.11 からの出発」活動のご報告 No.13 松岡享子

2月の陸前高田への訪問は、2度の大雪あとの19日から20日にかけて予定されていました。そのころはまた雪との予報が出たので心配しましたが、幸いお天気はもって、無事行てくることができました。

小友小学校では、いつものように元気な子どもたちが待っていてくれました。これまでは図書室でお話をしていましたが、今回は音楽室で、とのこと。あとでわかったのですが、図書室は大幅な改装をしていて、新しい書架が増えて、みんなが座れる場所が狭くなっていたのです。でも、音楽室は階段教室になっているので、むしろお話には好都合です。

1年生から3年生までは、冬から春への移り変わりを頭において、「ゆきんこ」からはじめて、春を告げる福寿草の「クナウとひばり」、そして、「梅の木村のおならじいさん」へとつなげるプログラムでした。おしまいのお話は、昨年、卒業式に参列させていただいたとき、卒業生が記念に校庭に梅の木を植樹したのを覚えていて選んだものです。

4年生から6年生までは、「犬になった王子」。麦の由来の話なので、合わせてインドネシアに伝わる「お米の話」を紹介しました。どちらの会も、終わったあと、感想をいいたいという子どもたちからたくさん手があがりました。高学年の組では、6年生の女の子が、米の話にも、麦の話にも蛇が出てくるのがおもしろいといってくれました。小学生時代のこういうちょっとした興味から、あるいは未来の民俗学者、文化人類学者、伝承文学研究者が生まれてくるのでは(!?)と、期待してうれしくなりました。

校長先生から、次年度も来ていただけますかといわれて「喜んで!」と、答えました。校長先生は、どのお話も子どもたちといっしょに聞いてくださり、「絵が見えますね」とか「ひきこまれました」などとおっしゃっていました。ご自分も、子どもたちにお話をしてくださっているようです。

そのあと、図書室を見せていただいて、その見事な改装ぶりに驚きました。床にはベージュ色のじゅうたんが敷かれ、テーブルといすは、窓際の明るい場所にまとめられています。書架の数はだいぶ増えましたが、部屋が見渡せるように低くつくられているので、開放感があります。案内板なども新しく、見やすくなっていて、とてもよくなっていました。教科書に準拠して選ばれたのであろう学年別の読物が、複本を揃えてきれいに並んでおり、子どもたちの貸し出しの記録も、すぐ手にとれるようになっていました。模様替えは、人海作戦でしたのかと思いきや、図書担当の村上先生がお正月の休みにひとりでやったとおっしゃったのにはびっくりしました。

小友小学校を訪ねるようになって、はや3年。最初に訪ねたとき1年生だった子どもたちは、この4月からもう4年生になります。笑顔で迎えてくれる子どもたちですが、まだほんとうの意味で親しくなったとはいえません。先生方も同じことです。わたしたちは、当初から訪問を慰問にしたいと考えていましたので、もっとほんとうに必要な手助けができるように、今回の訪問では、子どもたちや、先生方から、率直な感想や、希望なども出していただいて、ゆっくりお話できる機会をつくってもらえないか、校長先生にお願いしているところです。学期ごとに贈っている本も、どのように受け止めら



れているか知りたいと思っています。

研修生の鋤柄さんが被災地は初めてだったので、市内が一望できる高台の諏訪神社にのぼりました。急な階段の60段目(?)ぐらいのところに、津波がここまで来たというプレートが立っていました。大勢の人が境内に逃げて助かったと聞きました。がれきこそなくなっていますが、眼下に広がる、はだかの土地は、復興は、まだまだだと語っているようでした。「奇跡の一本松」の近くでは、山から土を運ぶ長いベルトコンベヤーができていて、巨大なクレーンが見えました。陸前高田には、たくさんの「はたらくじどうしゃ」が集まっているようです。「ちいさいおうち」では、その見学会を行ったとか。なかには、日本にも数少ない特殊な車もあったそうです。自動車好きの男の子たちには、さぞわくわくする体験だったことでしょう。

図書館再建の計画もちらほら話題にのぼるようになっていて聞きました。すぐにはいかないうちが、多くの人の知恵を結集して、市民みんなに愛される、使いやすい、いい図書館ができるように願っています。わたしたちにもお手伝いできることがあればうれしいのですが。さしあたっては、故渡辺茂男先生から譲り受けた本のうち、現在も価値があり、十分使い出もあるけれど、もう絶版になっていて、図書館再開時には入手不可能であろう本を1500冊ほど取りのけてあります。ご要望があれば、お送りする用意ができていますが、陸前高田の子どもたちに活用されると知ったら、渡辺先生も、ご遺族の方々も、きっとお喜びくださると思います。



陸前高田を初めて訪ねて

2月19日と20日、小友小学校の子どもたちにお話を届けるため、松岡理事長、小関理事と陸前高田を訪れました。その頃東京では雪の被害に何度となく悩まされていましたが、気仙沼駅まで順調にわたしたちを運ぶ電車に、大抵の雪ではひるまない雪国の強さを感じました。

わたしは、2011年の東日本大震災以降、東北に足を踏み入れたことがありませんでした。それは、東北で起こった惨事を直視することを、心のどこかで恐れていたからだだと思います。前日に宿泊した気仙沼のホテルでは、気持ちが高ぶってなかなか寝つけなかったことを覚えています。そして朝、小学校までの道すがら、車の中から見たのは未だに残る津波の深い傷痕でした。小学校の図書室の窓からも被害の大きさを、まざまざと見せつけられました。その光景を思い出すと、今でも鼓動が速まってきます。

けれどもそんなわたしに、東日本大震災と対峙する大切さを教えてくれたのは、他でもない陸前高田の人々でした。お話会では、1年生から3年生の子どもたちが、わたしの語る「クナウとひばり」をじっと聞いてくれて、その姿に、自分に何が出来るのか真剣に考えなければいけないと目の覚める思いがしました。小友小の先生や「ちいさいおうち」の職員の方々の笑顔にはこちらが励まされました。

帰りの電車の中、窓からの雪景色を眺めながら、また陸前高田を訪れようと思いました。

(鋤柄史子記)

公益財団法人 東京子ども図書館

〒165-0023 東京都中野区江原町1-19-10 Tel.03-3565-7711 Fax.03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>

振込先 ゆうちょ銀行/郵便局 口座記号番号 00130-9-115393 加入者名 公益財団法人 東京子ども図書館

*報告のバックナンバーは、ホームページでもお読みいただけます。